

# 地域における音環境の調査と提案

## 1 背景・目的・概要

2016年3月に開業した北海道新幹線の影響を受け、函館への観光客は近年増加傾向にある。しかしこの効果は一過性の可能性がある。今後も継続的に観光客を呼び込むために、音風景という観点から函館の観光について考え、更なる魅力を発信していくことがこのプロジェクトの目的である。

音風景とは、ある地域固有の音や創造された音によって演出される音環境のことである。自然環境や文化、地域での産業から形成される音などもこれに含まれる。元町にある函館ハリストス正教会の鐘の音が環境省の「残したい“日本の音風景100選”」に認定されていることから、函館には観光資源になりうる音風景が多く存在するのではないかと考え、図1の1年間の活動を行った。

## 2 プロセスと成果

函館に関する音を調査した結果、函館市の観光サイト「はこぶら」の内部に音ライブラリという函館市の観光地や豊かな自然、イカなどの音を紹介しているページを見つけた。そこで、設置・運営をしている函館市観光部にアポイントメントをとり訪問し、函館市の観光への取り組みなどを聞いた。また、はこぶらの運営は市が株式会社シンプルウェイグループに委託していることが判明したので、再びアポイントメントをとり、本通町にある株式会社シンプルウェイグループを訪問し、観光資源を発信する有効な手段についてインタビューを行った。その中で、音ライブラリの反響や開設経緯などを知った他、人が大勢集まるようなところで流すなどの提案をしてもらった。こういった、市役所や企業にいただいた話を踏まえて、地域の人々に音環境に興味を持ってもらうためにはどのようにしたらよいか検討した。そこで「はこぶら」にある音ライブラリの音源が20年前のものということから、現在の音風景を収録し、それを今の函館の音として発信していくことを決めた。

収録した場所は、函館山、ハリストス正教会、市電、香雪園、立待岬、新中野ダム、笹流

5月	上旬	顔合わせ	10月	上旬	後期活動計画の作成
	下旬	地域の課題について調査①②		下旬	音収録①
6月	上旬	訪問①②	11月	上旬	動画作成①
	下旬	実地調査（環境音・鐘・市電の収録）		下旬	音収録②
7月	上旬	まとめ・ポスター作製	12月	上旬	動画作成②・音収録③
	下旬	中間発表		下旬	サイト立ち上げ・動画公開（ウィンターフェス）
			1月	上旬	動画公開（サイト）・成果発表準備
				下旬	成果発表

図1 年間スケジュール

ダム、道南四季の杜公園、金森赤レンガ倉庫など、函館市を代表する観光地から地域の住民も普段は行かないようなマイナーな場所まで幅広く取り扱った。そこで収録した音や風景などに、歴史などの説明を加えて編集し動画を作成した。また、それらをインターネットで発信しようと考え、ブログ (<https://hakoto.tumblr.com/>) を作成し短い動画を紹介すると共に、いくつかの動画を YouTube に掲載した。

### 3 地域からの評価

2016年12月17日に開催された函教大ウィンターフェスでプラネタリウム（天文部のブース）に来場した地域の方々に本プロジェクトが作成した函館山・ハリストス正教会・新中野ダムの動画を見てもらい、アンケートに回答していただいた。アンケートの回答者数は62人だった。アンケート結果を図2に示す。

この結果より、本プロジェクトの動画を見て、その場所に行ったことがない人でも、動画の場所に行きたくなったことがわかる。

また、感想として、函館山を見ていただいた方々からは、「夜景だけでなく自然もとてもきれいで見に行きたくなった。」「鳥の鳴き声がきれいで函館山に行きたくなった。」「子どものために読み仮名を振った方が良い。」などの感想や意見をいただいた。ハリストス正教会を見ていただいた方々からは「素敵などころで行ってみたいとなった。」「詳しい解説がついていたからわかりやすかった。」新中野ダムの動画を見ていただいた方々からは、「もっと沢山

「1. 動画の場所に行ったことがあるか。」



「2. 動画を見て動画の場所に行きたくなったか。」



図2 アンケート結果

の函館の風景の映像が見てみたくなった。」「知らない函館が見れて良かった。」「とてもわかりやすく興味がわいた。」などの感想をいただいた。

2017年1月21日に地域プロジェクトの発表会が開催された。そこで地域の方々や本大学の生徒や先生方にプロジェクトについて知ってもらい、評価をもらった。「新しいことが知れてよかった。」「おもしろかった。」「勉強になった。」「音って身近なものだから画期的だと思った。」などの肯定的な意見のほか、「もっといい機材でもっといい音を録ったほうが良いのではないか。」「音を録りに行く最適な季節や時間帯まで計画を立てて録りに行ったほうが良い。」などの意見をいただいた。

なお、2017年1月22日の北海道新聞朝刊に本プロジェクトについてインタビューされた記事が掲載された。

#### 4 総括と反省・今後の課題

函館に存在する観光資源の中から『音』に焦点を当て、実際に函館ハリストス正教会の鐘の音や函館山の野鳥の鳴き声を収録したり、その音に関連性の高い歴史を調べたりすることで、これまで知らなかった函館の新たな魅力を発見することができた。

さらに、新たな魅力を発信するために、函教大ウィンターフェス（天文部のブース）にて作成した動画を上映し地域の方々から評価をいただいた。地域の方々からの評価や意見をもとに動画を改良し、観光資源として音風景を提供するために動画制作・HPの作成・動画共有サイトへの投稿を行った。

収録する音の種類については自分たちだけで出し合うだけでなく、地域の人が集まるような施設などに協力してもらい、ワークショップを執行し、地域の人に意見を求めることができればより多くの音資源を見つけることができるはずだ。

音の収録に関しては専門の収録機材への理解を深め、当日に機材を使用できない事態が起これないようにするべきだった。

ウィンターフェスでの上映や動画共有サイトへの動画の投稿だけでなく、駅の待合室や空港そして病院など自然と聞いてもらえるような環境で上映する機会を増やし少しでも多くの人に函館の音風景を発信していくことが必要だ。

**謝辞** 本プロジェクトの実施に当たり、函館市観光部 鶴喰理沙様、株式会社シンプルウェイ代表取締役 阪口あき子様、はこぶら編集長 安立真由美様には貴重なご助言をいただきました。ここに感謝の意を表します。

#### メンバー

4321 板垣夏生、4324 天野貴之、4339 市沢里佳、4340 高松美咲、4346 埋橋優希、4348 下村新之助、4361 三浦大河、担当教員 今野英明